平成３０年度宇部市総合教育会議（第１回）　議事録

１　日　時　平成３０年7月２４日（火）１７：３０～１９：００
２　場　所　宇部市文化会館　２階　研修ホール
３　出席委員の氏名
　久 保 田　后 子　市長
　野　口　　政　吾　教育長
　田 村　賢 二 郎　委員
　山 野　あ い 子　委員
　川　﨑　　裕　美　委員

４　事務局出席職員
　佐野教育部長、坂本参事、床本総務課長、
　村上施設課長、網本学校教育課長、三原学校教育課長同格、
　古富教育支援課長、谷学校給食課長、水津コミュニティスクール推進課長、
　佐々木人権教育課長、池田学びの森くすのき・地域文化交流課長
　藤永図書館長、山本副館長、小林総務課副課長
５　趣　旨
（事務局）床本総務課長
　ただ今から、平成３０年度宇部市総合教育会議（第１回）を開催いたします。
　本日の議題は、「ＩＣＴを活用した学校教育の推進」と「学校における子どもの安全対策」及び「学校におけるジェンダー対応」の３件となっております。
　本日の会議の終了時刻は、１９時００分を予定しています。
　それでは、ここからの進行は、本会議の主宰者であります久保田市長にお願いします。
（委員）久保田市長
　皆様、酷暑の日々いかがお過ごしでしょうか。本当に記録的な暑さであり、専門家によれば、まさに気候変動のシナリオに合致し、すでに人類は気候変動の危険水域を超えたといわれています。ＩＣＰＰやパリ協定に参加したすべての国の人々が協定に基づく具体的な行動を実施し、また、様々な学校行事においても、温暖化対策に真剣に取り組まなければならないと思います。こうした中で、西日本を襲った集中豪雨は、過去に例のないという言葉さえも度々使わなければならないほどの大きな被害を次々ともたらしました。皆様とともに、犠牲になられた方へのお悔やみと、今なお復旧に御苦労なされている皆様に、お見舞いの気持ちを共有させていただければと思います。宇部市といたしましても、速やかに消防職員の派遣、給水活動や多岐にわたる一般事務職員の支援、また避難所における支援ということで、保健師の派遣等も行っています。備蓄しておりましたアルファ米千食分も、すでに届けたところです。また、本市においても同様の災害が起こりうるということを考え、地域防災計画の見直しにもつなげていこうと総点検をしています。そういう中で、本日は３つのテーマについて会議を行いますが、皆様御用意されている御意見や御提案があるかと思いますのでよ

ろしくお願いいたします。

―　ＩＣＴを活用した学校教育の推進　―

（委員）久保田市長

それでは早速ですが、議事の１、ＩＣＴを活用した学校教育の推進についてですが、宇部市の中小企業や小規模事業者について、小さな事業者こそデジタル技術を活用することで、事業の承継や、様々なビジネスチャンスをつかめるのではないかと言われていますが、実際はまだまだそういう状況ではないということで、この日曜日に起業や事業展開における拠点を設けたところです。また、現在、市役所の庁舎におきましても、人手やお金が集中的に投入されているところを中心に、定型的な業務や他の自治体と協働できるような箇所について、ＩＯＴ化、ＩＣＴ化、ＡＩの活用を基本的に導入することが、国の方向としても示されています。そして、社会全体の流れも考えますと、学校教育がどういう役割を担い、子どもたち次世代が、どういう時代でどういう学びをしなければならないかということが重要であると思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

（事務局）網本学校教育課長

それでは、ＩＣＴを活用した学校教育の推進について御説明します。まず学校におけるＩＣＴの活用状況についてですが、宇部市では、平成２６年度から各学校に、タブレットの配布を開始しまして、現在、計２０９６台のタブレットを学校に配布しています。ただ、最初は、これを指導する教員のスキルが課題であり、各学校では、放課後に教員の研修を実施してきました。それから、ＩＣＴコーディネーターが、定期的に教員を集めて研修会を開催しています。その結果、昨年度末タブレットを使って授業を行った教員の割合が９７％となり、ほぼ１００％に近づいてきました。定年退職が近いベテランの教員も、授業で使えるスキルを身に付けています。タブレットには一つ問題があって、一斉に使うと電波状況の弱い学校では、途中で映像が止まるなどのトラブルがあります。今年から試験的にＬＴＥタブレットをモデル校に導入して、どのくらいスムーズに授業ができるのかを検証しています。オンライン英会話は、山口県では宇部市だけの取組ということで、全国的にも注目をされており、子どもたちも、当日画面を見るまで、相手の講師が誰かわからないということで非常に楽しみにしています。この時間では、教員はほとんど指導せず、子どもたちだけで会話をするようにさせており、教員が子どもたちの様子をしっかり観察して、評価ができるというメリットもあります。さらに、ＡＩを搭載したロボットを活用し、英会話の練習も行っています。これは先日ＮＨＫでも取り上げられました。それから、プログラミング学習については、２学期からペッパー君を使って、このロボットを自分の思い通りに動かすためにはどういうプログラムが必要かといった学習を始めるところです。また、スカイプを使って、教員が職員室で、他の学校の研究授業の様子を見ることもしています。これを実用化すれば、小規模校の子ども同士の意見交換や、教員が離れた場所にいても研修を受けることができるようになります。こうしたことを進めていけば、様々な可能性が広がるのではないかと考えています。

（委員）久保田市長

ありがとうございます。

早速ですが、ただ今の説明について、御意見や御提案をお願いします。

（委員）田村委員

ＩＴ化は本当に避けて通れないと思いますが、ソフトバンクの孫社長が、次期社長はＡＩになるといわれたとまことしやかに言われています。企業もそうしたところに早急に取り組まないと、生き残っていけないということで、教育の方でも取組の速度を上げていかなければならないことは、周知の事実だと思います。その中で宇部市では、先端を行っているということで素晴らしいと思います。オンライン英会話において、講師を確保し、教育することは困難な中で、これを活用されていることは良いことだと思いますが、生の英語を聞くということも大変重要だと思いますので、同じ空気の中で会話をすることを充実させていかなければならないということも、大事にしていただきたいと思います。プログラミング学習については、私は大変疎いのですが、プログラミング言語というのは、人とコンピューターが会話をするための大事な言語ということで、見方を変えれば、会話の授業のひとつのような感じで取り組んでいかなければならないと思います。プログラミング言語は世界共通なので、英語と同様か若しくはそれ以上の世界共通言語ということになりますので、これから子どもたちにしっかり教えていくということが大事になってくると思います。ＩＴ系の仕事に就く子どもでなくても、そうしたところが分かっていなければならないという世界になってきていると言われていますし、プログラミングを学習すること自体が、脳の活性化につながるという捉え方で、これから大変重要になると思います。先ほどフリーズするなどの課題があるとのお話もありましたので、そのあたりをチェックするとともに、ＶＤＴ症候群や、ブルーライトについての対策も取っていきながら、進めていただきたいと思います。

（委員）久保田市長

田村委員ありがとうございます。オンライン英会話も大切だけれども、生の英会話も必要であるということで、現在のＡＬＴの状況について、それから、ＩＴ系の仕事に就く就かないに係わらず、これからの時代どうしてもプログラミング教育が必要になるということで、それに対する教員の状況やブルーライト等の対策について、事務局から補足をお願いします。

（事務局）網本学校教育課長

昨年度、ＡＬＴを６人配置していましたが、今年度は１２人に倍増しました。この１２人には意味がありまして、これから小学校で外国語活動が始まり、小学校教員の一つの課題となっておりますが、計算上は、この１２人のＡＬＴが毎日各学校に行けば、小学校３年生から始まる外国語活動の全ての時間に入ることができます。更に中学校が１２校ありますので、全中学校に一人ずつ配置して、そこから小学校に出向いていくことができます。児童生徒数あたりのＡＬＴの人数では県内トップとなっています。このＡＬＴとは別に、日本人で英語が堪能な地域英語支援員を６名任用しています。この人たちは、複式学級の英語の時間で活躍されています。学習指導要領では、英語は複式学級ではできないとされていますので、地域英語支援員を配置し、複式学級を解消しています。プログラミング教育については、指導者としてのスキルが十分とはいえません。教育委員会にＩＣＴ支援員が２人いますが、各学校で教員を指導しています。プログラミング教育は、プログラマーを育てることが目的ではなく、プラグラミング教育をすることで、論理的思考や物事を順序立てて考えることを鍛えることが目的となっています。技術科のようなパソコンを使った授業も必要ですが、国語や

算数など全ての教科の中で、プログラミング学習を取り入れていくことになっています。ブルーライト等の対策については、タブレットの配布を始めた時から実施していますが、家庭と連携して、アウトメディアの取組や自分で時間を管理する能力についても学校で指導しています。

（委員）田村委員

山口東京理科大学で、プログラミング教室を行っていたかと思いますが、定員の３倍の申し込みがあるということです。私たちが思っている以上の需要があるようですので、しっかり認識しなければと思います。

（委員）野口教育長

今言われた山口東京理科大学のプログラミング教室には、３年前から関わっており、子どもたちの作品も見てきました。だんだん高度な使い方ができるようになり、そこに参加した子どもが、学校のプログラミングの授業の時にリーダーとして引っ張っています。教育委員会として、山口大学工学部や宇部高専、企業等とつながりを作り、広めていこうと考えています。

（委員）山野委員

すごい時代になったなと思います。ＩＣＴを使った授業をすると、子どもたちが分かりやすくなって、その授業を楽しめて、社会に必要な能力が身に付くというところが素晴らしいと思いました。先ほども、論理的思考を育てるとおっしゃいましたが、今から先、子どもたちが社会で生きていくために必要な力を小学校の時から身に付けることができるということは、大事なことだと思います。そのことが、宇部市で積極的に進められていることは素晴らしいと思います。今では、知りたいことがＩＣＴを活用すればすぐに知ることができ、授業にも活用できます。教員が調べるだけでなく、子どもたちが自分達で調べることができるのも良いと思います。宇部市でいま取り組んでいる学び合いのある授業に関して、体育で跳び箱をする際に、タブレットで撮影して、グループで跳び方について自分たちで考えて、お互いにアドバイスするという学び合いに有効だと思います。大変有効に使えるタブレットですが、フリーズすることや、使いたい教室で使えないという課題があると聞いています。特別支援教育にもタブレットはとても効果的だと思いますが、学校によっては、特別支援学級で使用できないことがあるそうです。環境を改善して、どこでも使えるようになれば良いと思います。質問になりますが、院内学級の児童生徒への授業提供や、欠席児童生徒への授業提供について教えてください。

（事務局）網本学校教育課長

学校現場の電波状況については、平成２６年度にタブレットを配布した時は、電波が届くところが限られており、教室でしか使えませんでしたが、その後改善し、校内ではほとんどの場所で使えるようになっています。ただ、いくつかの学校で同時に使用すると、停止する状況が発生していますので、ＬＴＥにすると、それの解消が期待されるということで変更を進めていきたいと思います。

（事務局）古富教育支援課長

宇部市では、平成９年から山口大学医学部附属病院に入院している児童生徒について、病

院内の病弱虚弱特別支援学級に入級することで、治療を受けながら学習室やベッドサイドで個別の学習ができる体制を整えています。教員は県費負担教員から配置されています。入院している児童生徒は、体験学習ができにくく、個別の学習で、大勢の学習ができないという制限がありますが、平成３０年度に国の入院児童生徒等への教育保障体制整備事業を活用し、ＩＣＴを活用した学習について研究ができることになりました。現在院内学級には２人入院しておりますが、ＩＣＴを活用した授業を行っています。

（委員）川﨑委員

子どもたちは、デジタルネイティブの世代で、タブレットやＡＩ搭載ロボットはとても身近にあって、教員よりも抵抗感がなく使うことができるのではないかと思います。昨年度も厚南小学校で、６年生が体育館で修学旅行の報告会をしましたが、皆上手に使いこなせていました。しかしながら、日常的に使うと言っても個人差があり、それを作成するときも班で活動していましたが、少し参加しにくい児童もいたので、教員の配慮が必要だと感じました。学校では安全に使える環境が整っていますが、家に帰って、インターネットを使うとなると様々なトラブルに巻き込まれたり、犯罪に加担してしまう危険もありますので、そうした面の教育もしっかり行う必要があると思います。筋道を立てて物事を考えるということは、生きていくうえでも重要なことなので、そうしたことをしっかりと考えることができる子どもを育てるために、プログラミング教育はとても有効だと思います。今後期待されるＩＣＴの活用事例として、ＩＣタグを利用した児童生徒の見守りシステムがありますが、毎日のように子どもが関わる事件事故は多く、保護者にとって不安なことがたくさんありますが、そうしたものがあると、安心感はあります。ただ一方で、子どもにとっても保護者にとっても、危機管理ができなくなるのではないかという不安があります。便利なものは、使いようによっては怖いものに変わるということを学んでほしいと思います。

（委員）久保田市長

川﨑委員ありがとうございます。今の御意見について、便利なものの光と影という点について、これまでも教育委員会で熱心に取り組んできたと思いますが、説明をお願いします。

（事務局）網本学校教育課長

これからの超スマート社会を生きていくためには、ＩＣＴなしではついていくことができない時代です。これをいかに有効に使うかということで、学校では、学活や道徳の時間だけでなく、定期的に情報モラル教室として、専門家を招いて講演等を実施しています。我々が一番苦慮するのは、放課後、家庭でどのような使い方をしているのかというところで、これにより生活のリズムが狂い、悪循環になるということが見受けられますので、ＰＴＡと連携して、地域家庭学校が一枚岩となって、危機感をもって取り組んでいかなければならないと思います

（委員）野口教育長

こうした新しいテクノロジーが発達してくると、新しい問題が発生してくるということは我々も覚悟しています。ＩＣＴを活用して、トラブルが起こっても、新しいテクノロジーがそれを解決してくれるということを信じて進んでいかなければならないと思います。文部科学省では、ＩＣＴの普及率が想定よりも低いということで、総合教育会議でもＩＣＴについ

て議論をしてほしいと考えているようですが、市長さんにも御理解いただき、予算も充実していますが、更なる御協力をお願いします。

（委員）久保田市長

新しいものを活用し、また、課題にもきちんと向き合って、解決しながら進んでいくということです。それでは次の議題に移りたいと思います。

―　学校における子どもの安全対策　―

（委員）久保田市長

学校における子どもの安全対策について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）網本学校教育課長

学校における子どもの安全対策について、教育委員会の取組をお話します。今回の広島岡山の豪雨災害、ブロック塀の倒壊等、子どもたちが犠牲になる事件事故が相次いでいます。幸い宇部市では、大きな事件事故はありませんが、今年度は不審者情報が多く寄せられ、危機感を持って取り組んでいるところです。そこで、学校における安全教育についての取組ですが、危険予測学習について、県が作成している資料を子どもたちに見せて、この状況でどこに危険がありますかという質問や、この状況でどのような行動をとりますかなどの質問をして、危険を予測するという学習をしています。それから、各学期に１回避難訓練や不審者対応訓練を行っています。年１回、保護者引き渡し訓練も行っています。例えば、ある学校では、教室に子どもを待機させ、保護者が順に兄弟を引き取っていくというパターンや、ある学校では、全員をグラウンドに集め、保護者が来たら兄弟同時に引き取る形で行い、それぞれのメリット、デメリットについて検証しています。安全マップも各所で素晴らしいものが作られていますが、自分たちで作ることにより、改めて危険個所の意識を高めるということで実施しています。通学路については、範囲が広く、学校だけでは目が行き届かないのが現状であり、地域との連携が不可欠となっています。各学校で、定期的に学校安全対策会議を開催し、そこで出てきた要望等について、宇部市通学路安全対策合同会議を開催し、関係機関が集まって、現地点検を行い、緊急度の高いものはすぐに対策を講じていただいています。８月に黒石中学校区で予定している地域合同防災キャンプでは、炊き出しや段ボールで部屋やベッドを作ることを行います。教員の資質能力の向上として、各学校で学校危機管理マニュアルを作成し、教職員間で共通理解を図っています。ただ、マニュアルにないことも起こってきますので、その都度改定を行っています。現在の学校施設の状況ですが、平成２９年度末の耐震化率は９０．３％で、３１年度末で１００％となるよう取り組んでいます。ブロック塀については、今回の事故を受けて緊急点検を行いましたが、２４校４２か所で現在の基準に不適合とされましたので、これについては緊急度の高いものから改善をしていくこととしています。

（委員）久保田市長

ありがとうございます。

早速ですが、ただ今の説明について、御意見や御提案をお願いします。

（委員）田村委員

御説明にもありましたが、毎日のように不審者情報が入ってきて、一体どうなったのかと

思い心配になりました。そうした時に威力があるのが、人の目があるということです。そのあたりを意識した取組ができればと思う中で、犬の散歩を、登下校の時間帯に合わせる取組があって、ただ散歩するだけでなく、見守りも兼ねてしているということを腕章などで明示して行うと、大変効果があると思います。私は自転車で通勤をしていますが、各所に見守り隊の方がいらっしゃって、皆さん高齢の方ですが、暑い日や雨の日も欠かさず立っておられて、本当に頭が下がる思いです。ここにＰＴＡが、もっと参加できれば良いと思います。共働きも多いこともありますが、自分の子どもを自分で守るという意識が、もっと出てくれば良いと思います。不審者に対してですが、不審者は自分がそこにいることを見られることを嫌がると思いますので、普段から挨拶をするということが大事だと思います。挨拶はその人の存在を認めるという意味がありますので、子どもたちに対しても大事ですし、大人同士の挨拶も大事だと思います。地域で声を掛け合うことで、不審者への抑止にもつながると思います。

（委員）久保田市長

田村委員ありがとうございます。委員から不審者対策として、人の目が重要ということで、犬の散歩を登下校の時間に合わせて行う活動についての本市の状況と、見守り活動に保護者の参加を促進できないか、大人の挨拶運動の展開について、事務局から補足をお願いします。

（事務局）網本学校教育課長

犬の散歩については、以前御提案いただいたこともあり、校長会で説明しましたが、実際に取り組んでいるところはありません。

（委員）川﨑委員

見守り活動の保護者参加について、厚南中学校区の取組になりますが、毎月第２火曜日をさわやか挨拶デーとしており、家の前でも良いので、子どもたちが登校するときに声をかけて下さいとお願いして、皆で挨拶を交わすという運動をしています。子どもたちだけに限らず、大人の中でも自然と挨拶がでてきて、近所の方とお話しする機会ができたという声も聞いていますので、こうした活動が、宇部市全体に広がれば良いと思います。

（委員）野口教育長

ただいまの御意見は、共助や公助ということになると思いますが、私たちが取り組んでいくべきところであると思います。災害についても、日本人は正常性バイアスが強く、現状を過小評価するという報道がありました。学校教育において、小さいうちから危機管理意識をつけていかなければならないと思います。公助、共助に加え自助を学校教育で進めていくことが大切だと考えています。

（委員）山野委員

今回の豪雨災害の際にも強く思いましたが、宇部市で作成している防災マップや洪水ハザードマップ等様々ありますが、もらっていても、良く見ていない現状があります。自分だけは大丈夫だという意識が、大人の中にあると思います。子どもたちに安全マップを作成させることで、安全意識を高めるとありますが、子どもたちが家族でマップを作ったり書き込んだり確認することができれば、子どもたちの学習にもなるし、自助の力を育むことになるのではないかと思いました。東日本大震災の後で、学校での防災授業が報道されていましたが、

中学生が、近所の高齢者に声を掛けて、高台に避難するという訓練がありました。子どもたちと地域の方とのつながりとして、コミュニティ・スクールをうまく活用すれば、子どもたちの力を使いながら、大人も勉強していくというようなことができるのではないかと思いました。安全に関して、学校や地域でのけが防止と並列して、自然災害に備えて、自然災害が起きた時にどうするかということを、保健や社会等様々な教科で学習していると思いますが、こうしたことを関連付けていけば、子どもの安全対策につながると思います。通学路について、昔は入学時などに、自分の通学ルートを提出していたように思いますが、現在はどこを通ってもそこが通学路になるということで、地域の中には、どう考えても危険だという場所がありますが、所有者との関係もあるので、そこの解決がうまくいかない状況があると感じています。

（事務局）網本学校教育課長

山野委員がおっしゃられたように、昔はある程度学校が、この道を通って通学してくださいという指定をしていましたが、皆さんそれぞれ生活スタイルがあり、帰りは、祖父母の家に行くとか、学童保育や塾に行くなどそれぞれ道が違ってきます。現在では、家庭からこの道を通りますということで提出していただいています。ですから、通学路の点検といっても、校区内全ての道が対象になりうるということで、学校だけでは手が回りません。そのような中で、あまりにも危険度が高い道を通るとしている家庭については、なるべく安全な道を通らせてはどうですかといった投げかけをすることがあります。

（委員）久保田市長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。それでは次の議題に移りたいと思います。

―　学校におけるジェンダー対応　―

（委員）久保田市長

最後の議題になりますが、学校におけるジェンダー対応ということで、近年ではＬＧＢＴについて様々な動きが出てきていますので、今回議題として取り上げました。事務局から説明をお願いします。

（事務局）佐々木人権教育課長

学校におけるジェンダー教育について説明します。まず学校におけるジェンダーの現状についてですが、以前は技術と家庭科が別であり、体育も男女別になっていましたが、学校教育活動は現在、男女混合で行っています。例外としては、保健体育や男女が別種目となる部活動などがあります。学校が取り組むべき課題としては、男女共同参画意識の向上とＬＧＢＴなど性的少数者への配慮があります。ＬＧＢＴについては、ある調査によりますと１３人に１人が該当するといわれています。こうした状況を踏まえ、具体的な取組として、全ての学校教育活動において、発達段階や学校の状況に応じて教育を行うようにしています。教員の研修については、教育委員会や校内研修により教職員の意識向上を図っています。学校の日常生活で気づきにくい所を見直していくということが大切な要素であり、トイレの表示などについて検討しています。少数者への配慮として、自認する性別の服装を認めることや、多目的トイレの使用を認めることなどについて、対象の児童生徒や保護者の意向を踏まえながら取り組んでいます。また、周囲の理解も重要になりますので、保護者の意向に応じて、

全校集会やＰＴＡ総会で性的少数者への理解を進めているところです。

（委員）久保田市長

ありがとうございます。それでは皆さんから御意見をお願いします。

（委員）田村委員

私がトランスジェンダーを初めて知ったのは、金八先生というテレビ番組でしたが、女子の転校生が男子の制服を着たいけれども認められなくて、最終的にも認められないで終わったと思います。当時それを見ていて、変わった子もいるなと思った程度でしたが、自分の子どもに置き換えると、とても受け入れられないと思っていました。しかし、最近講義や講演などを聞いて、明らかに間違っていたと思います。少し前までは、性同一性障害と言われていましたが、今は性的少数者となって、障害ではなく単なる少数派であるとされています。今でも大人は性同一性障害という認識の方が多く、意識改革が必要だと思います。１３人に１人だと少数派でもなく、普通のことだという考え方を持たなければと思います。最近、針間産婦人科の金子法子先生のお話を聞く機会があり、ＬＧＢＴは普通の人の単なる個性でしかないということが、良く理解できました。ただ、ジェンダーフリーに関して、雛祭や兜飾りがまかりならんといった極論を言う人もいて、そこは少し違うのではないかと感じています。男らしさ、女らしさというものも大事にしていく必要があると思います。

（委員）久保田市長

今の田村委員の御意見について、事務局から何かありますか。

（事務局）佐々木人権教育課長

金子先生のお話がありましたが、金子先生は市内の多くの学校で御講演いただいています。学校以外でも、人権学習セミナーにお招きして、性的マイノリティへの理解と対応という研修を行う予定にしています。

（委員）川﨑委員

テレビなどでいわゆるおねえタレントが活躍しているので、子どもたちの中では、大きな問題として捉えていないのではないかと身近に感じています。実際に学校にもそうした子どもがいて、小学校の時から子どもたちは認識していましたが、中学校に入学するときに知らない子どももいるということで、戸籍上は女の子ですが、本人や保護者としっかり話し合ったうえで、本人の心の意向を尊重して、男子学生服を着用して登校するということを、教員がとてもスマートな言葉で説明されました。私たちはその言葉をとても自然に受入れることができました。要は意識の問題であって、子どもたちはよくわかっています。大人がどうとらえるか、家庭でどのように話すのかというところが、子どもたちの認識の中で重要だと思います。好きな色や好きなものを着て学校で過ごすというのはとても大切なことで、私たちの時代には女の子でも青い上靴を履くということは考えられませんでしたが、こうしたことが普通になってきているので、大人が意識を変えていくことで、男性だから女性だからという考えがなくなれば、女性の社会進出も進んで女性がもっと活躍できる社会ができるのではないかと思います。

（委員）久保田市長

事務局から何かありますか。

（事務局）佐々木人権教育課長

御意見のとおり、子どもの方が自然に受け入れている状況はあると思います。大人にはこれまでの固定観念があると思いますので、意識を切り替えていくことが重要だと思います。

（委員）野口教育長

人権の地域大会で話をする機会がありましたが、ＬＧＢＴについて、子どもたちは自然に受け入れていますが、もしあなた方のお子さんやお孫さんの婚約者がＬＧＢＴであったら受け入れられますかと聞くと、それはちょっと、といった意見がほとんどでした。この意識というのはすぐには変わらないと思いますが、啓発していかなければならないと思います。

（委員）山野委員

思い返せば、思い当たる子どもたちがいます。宇部市のほとんどの小学校では制服がなく、そうした子どもたちにとっては、とても楽だったのでしょうが、中学校に進学するときに、制服になるのがとても嫌だと言っていた子どもがいました。上宇部地区の人権大会で、性的マイノリティについての勉強会があって、大人の理解不足は、偏見や差別を生んでいるということで知ることが一番大切であると言われました。身近にたくさんの人がいるということを認識して欲しいということでしたが、それを学校で、どうやって子どもたちに指導していくのかというところが大事で、保健の授業で異性を好きになると書いてありますが、その時に同性を好きになる子やどちらも好きになる子がいて、それはおかしいことではないということをきちんと伝えるということが大切です。子どもたちは自然に受け入れていることが多いですが、案外そのことでいじめられたり、自分で悩んだりしている子どももいるのではないかと感じました。子どもたちは教科書で学ぶ機会がありますが、大人にも学ぶ機会が増えてくれば良いと思いました。ＬＧＢＴの方が、子ども時代にいじめなどで苦しんで不登校になったり、現在不登校になっている子どもで、ＬＧＢＴが原因のケースはありますか。

（委員）久保田市長

宇部市の児童生徒についてのＬＧＢＴの状況と、子どもたちは教育が入って理解が進んできているが、学校の中で広く保護者にも学ぶ機会が提供できないかということ、ＬＧＢＴで不登校になっている子どもはいるのかという質問ですので、事務局は説明をお願いします。

（事務局）古富教育支援課長

ＬＧＢＴなどの性的少数者に対しては、教職員の理解が重要であると考えています。中学校入学前から本人、保護者の相談に応じて制服に関すること、トイレ、更衣場所、部活動等あらゆる場面を想定して、本人や保護者の意向に対応しています。周囲の理解を深めるために、全校集会やＰＴＡ総会の機会を捉えて性的少数者の説明を行うようしています。不登校児童生徒のなかに、ＬＧＢＴの子どもがいるということは把握しています。

（委員）久保田市長

その他よろしいでしょうか。本日３つの議題について議論してきましたが、せっかくの機会ですので他に何かございますか。

（委員）野口教育長

過去５０年にわたり、図書館が主催してきた青空読書会は、夏休みに幼児と小学生３年生までを対象に、ときわ公園で読み聞かせを行うという素晴らしい行事ですが、今年の猛暑を

考慮すると、炎天下の中で実施することは、熱中症の危険も高まりますので、今年度は中止することといたしました。中止ではありますが、別の機会を設けて、読書会を楽しみにしている子どもたちやボランティアのために違う方法で機会を提供したいと考えています。

（委員）久保田市長

本日は３つの議題でございましたが、猛暑というか酷暑という中で、また、降れば土砂降りという激しい気候変動の時代に急速に入っているという現実を受け止め、教育の現場でもそれに応じた対応をしていかなければなりません。救急車で運ばれるような熱中症はもちろんのこと、過剰に直射日光を浴びることの悪影響は学術的にも指摘されていますので、そうした知見を市としても健康増進の分野からも教育委員会と共有していきたいと考えています。様々な意味で、去年と同じことをしておけば良いということでは通用しないということを、皆さんと認識を新たにしたいと思いますので、引き続き教育委員の皆様の御指導御鞭撻を頂戴できればと思います。本日３つの議題について、皆様から貴重な御意見、御指摘をいただきました。これを今後の教育行政、また市政においても反映できることもあるかと思いますので、市としても取り組んでいきたいと思います。本日はありがとうございました。

以上で、平成３０年度宇部市総合教育会議（第１回）を終わります。